

# 平成 30 年度 試行調査 (プレテスト) 設問別分析 倫理

大学入試センターホームページ (「問題のねらい」等は下記からご覧ください。)

[https://www.dnc.ac.jp/daigakunyugakukibousyagakuryokuhyoka\\_test/pre-test\\_h30\\_1111.html](https://www.dnc.ac.jp/daigakunyugakukibousyagakuryokuhyoka_test/pre-test_h30_1111.html)

試験時間: 60 分

※設問数は「正しくマークしたときに得点が与えられるまとまり」としてカウントしています。

大問番号 (配点)	分野	設問数 ※	テーマ・出典	分析コメント
第 1 問 ( 34 )	青年と心理・源流 思想	10	人間の存在や価値 に関わる問い	<p>A 問 1・問 3 はいずれも、問題を解くための情報・資料を示し、それらの情報を組み合わせつつ思考・判断させようという意図の問題、いわゆる初見問題であった。問 2 は、マズローの欲求階層について問うたものであるが、教科書的な知識をストレートに問うのではなく、その知識に対する理解を前提に会話文の趣旨も踏まえた上で正解を導くタイプの設問である。</p> <p>B 問 4 は、徳について考察した哲学者たちの思想について問うたものであり、センター試験と同様の知識問題 (教科書を通じて獲得される知識をもとに解く設問) である。問 5 は、問題を解くための情報・資料を読み取った上で会話文の内容を把握し、空欄に入る語句を思考・判断させようという意図と、アリストテレスの全体的正義・部分的正義に関する理解力を測ろうという意図がある。空欄 <input type="text" value="え"/> には「全体的正義」が入るが、教科書の表現と異なった説明から判断しなければならず、難しかったといえよう。問 6 は、与えられた記述内容を読み取り、下線部に合致する事例を選択させる設問。</p> <p>C 板書を示す形式をとっており、授業場面を想定したつくりとなっている。問 7・問 9 はいずれも、「前問の解答と連動し正答の組合せが複数ある問題」の形式、具体的には、最初の設問で「自分がどのテーマを選択するか」を表明し、これに続く設問では「あなたが選んだテーマと合致する言葉・資料」を答えていくという形式がとられていた。一つひとつの選択肢が長文となっているものの、自分が選択したテーマと関わりのあるキーワードを追いかけるのみで正解の選択肢を絞り込むことが可能なつくりとなっているため、丁寧に選択肢を読まずとも要領のよさがモノをいう設問 (細かく探究するよりも、一問一答的な暗記力でクリアできる設問) となっていた。この形式の場合、結果的に、自分が得意とする (自信のある) テーマを選んで解答することができる。問 8 は、生徒が作成したノートを示す形式をとっており、「生徒が学習する場面」を意識したものとなっている。この設問は、当てはまる選択肢を全て選ぶ形式となっているため、正答率は低くなることが予想される。問 10 は、『莊子』の寓話を取り上げるなど問題を解くための情報を提示した上で、生徒同士の会話文の空欄補充を行う設問であった。この設問で正解を導くためには、文章を読み取る力はもちろん、論理的思考力や判断力、さらには道家や儒家の思想に関する正確な理解も必要となる。なお、この設問で用いられた資料文は、1998 年センター本試験の解答番号 4 と同じものであり、この過去問に接した受験生であれば、解答しやすかったかもしれない。</p>
第 2 問 ( 24 )	日本思想	8	日本人にみられる 人間観、世界観、 宗教観などの特質	<p>A 問 1 は御神体である「那智の滝」を手がかりに日本人にみられる宗教観の特質を、問 2 は「菩薩」というキーワードを手がかりに大乘仏教と上座部仏教の伝播をめぐる知識を、問 3 は「曼荼羅」に関連する知識を、それぞれ問うていた。会話文に登場する「釈迦牟尼仏」や資料として扱われた「曼荼羅」など、受験生にとってはやや細かい知識事項が扱われていたことから、しっかりと学習している者であっても苦戦したかもしれない。問 4 は、会話文の趣旨を踏まえ、空欄に入る説明を選ぶ形式の設問であった。単に会話文の趣旨を読み取るだけの設問やグラフ資料の内容を読み取るだけの設問であれば、センター試験においても出題例は多数あるが、この問題は、この二つの要素の両方が解答に必要なつくりとなっている。</p> <p>B 問 5～問 7 はいずれも、教科書的な知識をきちんと習得できていれば、比較的容易に正解を導くことができたものと考えられる。とくに問 5 と問 6 の 2 問については、センター試験にはみられない設問のつくりをしているが、深く思考せずとも短時間で正解できただろう。</p>

大問番号 (配点)	分野	設問数 ※	テーマ・出典	分析コメント
第3問 (24)	西洋近現代思想	8	人間と社会の在り方	<p>A 問1は、ピコ・デラ・ミランダ『人間の尊厳について』の資料文中の空欄に入る語句を考え、その語句を入れた際に正しい解説となる記述を二つ選択させる形式を採っていた。この出題形式はセンター試験にはみられないが、空欄に入る語句（自由意志）が確定することができれば、「人間の自由意志」をめぐる各思想家の考えの違いを区別するという、従来のセンター試験の形式と同じ知識問題のつくりとなる。 問2・問3は、それぞれ絵画資料や資料文を用いているが、いずれも初見問題に分類することができる。</p> <p>B 問4・問5は、生徒が作成したレポートを示す形式をとっており、「生徒が学習する場面」を意識したものとなっている。「自己」をめぐる様々な立場からの主張について、近代以降の西洋の先哲の考え方を手がかりに、多面的・多角的に考察させようという意図をもった設問であると思われる。教科書的な知識をきちんと習得しておく必要がある知識問題である一方で、暗記型の学習のみではそのすべてに正解することが困難なつくりとなっている。</p> <p>C 問6は、生徒が作成したレポートを示す形式をとっており、「生徒が学習する場面」を意識したものとなっている。この設問のつくり（三つの空欄に三つの記述を、それぞれ二者択一的に選んだものを組み合わせるタイプ）は、センター試験においてもほぼ同様のものがみられる。</p>
第4問 (18)	現代社会の倫理的課題・西洋近現代思想	6	所有や自己決定の考え方	<p>A 生徒が作成した課題探究の準備メモを示す形式をとっており、生徒の学習過程を意識したものとなっている。問1は、ロックの『統治論（市民政府論）』における説明の順序の並べ替え問題である。このタイプの設問はセンター試験にはみられないが、教科書に記述されている知識をきちんと習得しておくことによって攻略できただろう。問2では、日本における法整備などの現状が問われたが、この設問は、センター試験と同様の知識問題に分類することができる。</p> <p>B 生徒が作成した課題探究の成果発表原稿を示す形式をとっており、生徒の学習過程を意識したものとなっている。問3は、文章の内容を読み取った上で選択肢を絞る必要がある。問4は「倫理的な見方や考え方を働かせて、倫理的諸課題について考察する力」を測ることを意図したものと思われるが、「パターンリズム」という単語の意味が理解できているかが試されているもので、単語の意味さえ知っていれば個々の記述内容を考察せずとも正解できるつくりとなっていた。問5も「倫理的な見方や考え方を働かせて、倫理的諸課題について考察する力」を測ることを意図したものと思われるが、環境倫理を考える上で明らかに不適当な視点に立った選択肢を消去していくことで正解を絞ることができた。</p>